

## 令和2年度 学校評価の取り組み報告～ダイジェスト版～

### ①今年度の取り組み状況

#### 夏1回目実施

「Ⅱ 保育の在り方・幼児への対応」(3歳以上児職員グループ)

禁止語は絶対使ってはならないのではなく、“安全を優先すべき時や命に関わる時は必要”という事を念頭におき、できるだけ使わないという意識を持つ事が大切だということを共有しました。グループディスカッションにて、“禁止、命令、行動を急がせるような言葉はどのような時に使っているのか？”禁止語を使うべき場面、見守る場面などを整理し、職員間で共通理解を図る為に話し合いました。



話し合いの中で、必ずしも禁止語を使用してはいけないという事ではないこと、どのような場面で使う必要があるのかを確認することができました。今後は各クラスの振り返りタイムや記録をする際のポイントとして、“指導のポイント”を作成。このポイントを意識しながら振り返り、記録をし、深い保育を行っていくことで、職員・クラス間の対応方法を統一することができ、個の成長からクラスの成長まで結び付けていくことを改善策として立てました。



Ⅶ「保育の在り方・3歳未満児への対応」(3歳未満児職員グループ)

評価シートの記述部分で、配慮が必要な園児への共通した支援を課題に挙げる職員が多かったため、「指導上配慮を必要とする乳幼児については、園全体で話し合い、共通理解をもって対応するようにしている」という項目に焦点をあて、“共通理解しなければいけない事は何か？”“共通理解できていないから実践できないのか？共通理解できているが実践できないのか？”“実践するためにはどのようなことが必要か”について話し合い、改善策を考えました。



共通理解しなければならない事は、どのようなものがあるか出し合うことで、共通理解しなければならない情報がたくさんあることに気づき、共有しました。また、配慮が必要な子に対し、クラスで振り返りしている情報はたくさんあるが、見やすい記録がないことに気づきました。改善策として、課題である食事に特化した記録を取ることにしました。また個人の記録に特化した項目を入れ、特に配慮が必要な部分に対して記録し、継続した支援が出来るようにしました。

#### 冬2回目実施

夏の自己点検・自己評価を受け、2回目は再び「Ⅱ保育の在り方・幼児への対応」「Ⅶ保育の在り方・3歳未満児への対応」の項目について自己点検・自己評価を行いました。

Ⅱ「保育の在り方・幼児への対応」(3歳以上児職員グループ)

他の保育者が困り、フォローして欲しい場面を出し合い、その中でも「製作活動」に焦点を絞り話し合いを行いました。

Ⅶ「保育の在り方・3歳未満児への対応」(3歳未満児職員グループ)

ぬくもり(延長)保育の時間帯で大切なことについて再確認をし、そのためにどのような環境を作れるかを考えました。

＜来年度に向けて＞

【3歳以上児】

○年間製作リストをもとに、担任・副担任で立案し、打合せを行う。

○製作物の完成写真をデータで保管し、翌年度へ繋げる。

【3歳未満児】

○ぬくもり(延長)保育の時間は子ども達がゆったりと安心できる環境、安全な環境を作り、“ぬくもり”を感じられる時間にする。(話し合った取り組みを実践していく)

#### 学校関係者評価委員会の方からのご意見

・コロナ禍によって園に入る機会が減り、他保護者と顔を合わせる機会も減った。この現状では仕方ないが、保護者間の繋がりが弱くなり残念。しかし逆に今までは園の様々な行事に参加することで保護者同士の繋がりを強く感じられたのだと改めて実感することができた。そしてコロナが終息し、生活が戻れば今まで通りの良い環境となり、繋がりを作っていけると思う。

・幼児教育はその後の人生に繋がる大切な時期であり、地域社会との関わりも大きな影響を与える。ノーベル文学賞受賞者である“カズオ・イングロ”は素晴らしい文筆活動をしているが、『現在の自分を支えているのは5歳の時まで過ごした長崎での経験があるから…』と言っている。幼児の生活や教育がいかに大切かが分かる。

・コロナ禍中でも、園では子どもと保育者は密接に関わらなければならない。そんな中でたくさんの工夫をしてこられたことがよく分かった。保護者も様々な理解、協力して下さり、これまでの信頼関係の賜物であると感心した。今後もこの地域の良さを生かし、PTA会長はじめ園長などみんなでより良い園を作り上げてほしい。

・仕事の「内容を充実させること」「効率をあげること」の両立はどの職場でも難しい課題である。その中で先生方が健康で元気に子どもたちに接して頂ければ、子どもたちも楽しく園生活を過ごせると思う。そのために保護者も協力したい。

・一人ひとりの教育ニーズを全校職員が確実に共有し、アプローチは異なっても目指す方向1つにしていくことは学校も同じであるが、様々な課題もつきまとう。まずはその「課題」が何であるのかを共通認識されている点が大変素晴らしいと感じる。

・より良い保育に向けてPDCAサイクルで丁寧に評価し、職員全員で努力していることは伝わったが、資料が多すぎて「良かった点」「そうでない点」「改善策」が伝わりにくい。学校関係者評価委員会のメンバーが資料を見て、何が良かったのか、そうでなかったのか今後どう取り組むのか、評価について平均化して一目でわかるようにすると、質問や意見が言いやすくなるのではないかと。